

応用生態工学会 第16回総会資料

開催日時：2012年9月9日（日）13：00～14：00

会 場：東京農業大学世田谷キャンパス（世田谷区桜丘-1-1）

資料目次

資料－1	一般経過報告
資料－2	会員状況報告
資料－3	総会・理事会・幹事会・委員会報告
資料－4	会誌「応用生態工学」編集報告
資料－5	2011年度（平成23年度）事業報告
資料－6	第3次中期計画（2010年～2013年）中間報告
資料－7	2011年度（平成23年度）決算報告
資料－8	2011年度（平成23年度）監査報告
資料－9	2012年度（平成24年度）事業実施状況・収支見込み
資料－10	2013年度（平成25年度）事業計画案
資料－11	2013年度（平成25年度）予算案
資料－12	規約改正

<添付資料>

- ・ 第8期役員名簿
- ・ 規約・細則

応用生態工学会 第16回総会 議事次第

開場（受付開始）

1. 開会 [司 会：事務局長 高橋真彦]

2. 総会議長選出

3. 会長挨拶 [会 長：近藤 徹]

4. 議事開始 [議 長：]

4.1 報告事項

[幹事長：藤田 光一]

2011年度事業報告

- (1) 一般経過報告（資料-1）
- (2) 会員状況報告（資料-2）
- (3) 総会・理事会・幹事会・委員会の開催状況報告（資料-3）
- (4) 会誌「応用生態工学」編集状況の報告（資料-4）
- (5) 2011年度（平成23年度）事業報告（資料-5）
- (6) 第3次中期計画中間報告（資料-6）

4.2 審議事項

[幹事長：藤田 光一]

(1) 第1号議案 2011年度決算・監査報告

① 2011年度決算報告（資料-7）

② 2011年度監査報告（資料-8）

[監 事：曾根 好徳]

(2) （参考） 2012年度事業実施状況・収支見込み（資料-9）

(3) 第2号議案 2013年度事業計画案（資料-10）

(4) 第3号議案 2013年度予算案（資料-11）

(5) 第4号議案 規約改正（資料-12）

5. 総会終了

一般経過報告

2011年度（平成23年度：2011年4月1日～2012年3月31日）の一般経過と、2012年度（平成24年度：2012年4月1日～）の応用生態工学会の一般経過・予定を報告する。

2011年度（平成23年度）応用生態工学会 一般経過報告

4.1	2011年度(平成23年度)開始
4.14	応用生態工学会誌編集委員会(麴町:応用生態工学会事務所)
4.16	応用生態工学会福岡「遠賀川中島自然再生研究会(仮称)設立・現地見学会」(遠賀川河川事務所)
4.22	<後援行事>自然災害フォーラム 九大2011「最近の突発災害における経験と教訓, 将来に向けて」(福岡県福岡市九州大学医学部百年講堂)
5.11～5.16	第1回次期役員募集・推薦委員会(メール会議)
5.19	第1回普及・連携委員会(金沢市:ホテルセンチュリー21 広島)
5.19～5.20	第3回フィールドシンポジウム in 広島「デルタ域の自然再生における流域的課題～太田川-広島湾流域圏～」(広島市内)
5.17～5.23	第47回幹事会(メール会議)
5.22～5.27	日本地球惑星科学連合2011年大会(千葉市幕張メッセ国際会議場)
5.24～5.30	第56回理事会(メール会議)
5.25	第3回金沢大会実行委員会(金沢市:石川県庁)
5.31	ニュースレター52号発行(電子配信)
6.1～6.30	次期役員 募集期間
6.8	国際交流委員会・応用生態工学会 東京:「Klement Tockner(河川生態学), Michael Monaghan(IGB, 遺伝生態学), 渡辺幸三(IGB, 遺伝生態学)等による国際シンポジウム」(東京工業大学 くらまホール)
7.5	第2回次期役員募集・推薦委員会(麴町:応用生態工学会事務所)
7.27	第4回金沢大会実行委員会(金沢市:石川県庁)
7.28	北陸現地ワークショップ in 新潟実行委員会(榊キタック 会議室)
8.2	第48回幹事会(麴町:応用生態工学会事務所)
8.3	ニュースレター53号発行(電子配信)
8.6	<後援行事>第3回自然再生講習会(島根県松江市)
8.23	第57回理事会(麴町NKビル2F WEC 会議室)
8.26	応用生態工学 札幌主催セミナー「本来の川を取り戻すために その6」(北海道札幌市)
8.31	応用生態工学会東京 第15回勉強会「農地周辺の生きものに関する話題」 (東京都千代田区)
9.13	第15回金沢大会関連行事 実験セミナー「手取川の河川地形の成り立ちを実験で学ぼう」(石川県立大学)
9.14	第15回 金沢大会 エクスカーション(石川県内)
9.15	第15回 金沢大会 研究発表会(ポスター), 自由集会(金沢学院大学)
9.16	第15回 金沢大会 研究発表会(口頭), 分科会, 自由集会(金沢学院大学) 懇親会(五十軒長屋)
9.17	第15回 金沢大会 総会, 第58回理事会, 第49回幹事会, 第8回合同役員会 公開シンポジウム(石川県立音楽堂)
10.24	札幌分科会ザリガニシンポジウム2011(札幌市)
10.28～10.29	第10回北陸現地ワークショップ in 新潟(新潟県新潟市)
10.29～10.30	<共催行事>日本生態学会第四回自然再生講習会 半自然草原の再生の理念と技術 (熊本県阿蘇市)

11.11	<後援行事>第8回水辺・流域再生に関わる国際フォーラム 「減災と環境保全の視点から都市河川再生を考える」
11.17	<共催行事>第14回 河川生態学術研究会 研究発表会(東京都港区)
11.18	応用生態工学会東京 第16回勉強会「閉鎖性水域における水質問題の現状と課題」 (東京都千代田区)
11.19	応用生態工学会福井 平成23年度 地域勉強会 「日野川の河原を再生させるための樹林化対策と河原の利活用」(福井県福井市)
11.22	第5回金沢大会実行委員会(金沢市:石川県庁)
11.25~11.26	応用生態工学会名古屋 都田川フィールドシンポジウム(静岡県浜松市ほか)
11.28~12.9	第50回幹事会(メール会議)
11.30	<後援行事>第2回内湾の機能回復シンポジウム「漁業生産を維持するための水環境」 (東京都世田谷区)
12.7	ニュースレター54号発行(電子配信)
12.31	会誌 Vol. 14-2 発刊
1.18	第51回幹事会(応用生態工学会事務所)
2.16	第60回理事会(麹町NKビル2階 WEC会議室)
2.28	第1回テキスト刊行準備委員会(応用生態工学会事務所)
2.29	ニュースレター55号発行(電子配信)・会費請求
2.29~4.20	2012年度海外学会派遣員募集
3.21	応用生態工学会金沢 地域研究会幹事会
3.31	2011年度 終了

2012年度(平成24年度)応用生態工学会 一般経過・予定報告

4.1	2012年度(平成24年度)開始
5.7~5.11	第1回国際交流委員会(メール会議)
5.11	三学合同大会『ELR2012 東京』第1回実行委員会(東京農業大学)
5.14	第1回会誌編集委員会(応用生態工学会事務所)
5.17	第2回テキスト刊行準備委員会(応用生態工学会事務所)
5.22~6.1	第52回幹事会(メール会議)
5.28	ニュースレター56号発行(電子配信)
6.7	第61回理事会(三崎町:貸会議室 内海)
6.8	テキスト刊行に関するワークショップ(三崎町:貸会議室 内海)
6.26	三学合同大会 エクスカーション実行委員会(応用生態工学会事務所)
7.10	三学合同大会『ELR2012 東京』 発表申込み締め切り
7.13	応用生態工学会東京セミナー 「河川生態系の多様性と管理」
7.13~7.14	第3回全国フィールドシンポジウム in 那覇
7.20	三学合同大会『ELR2012 東京』第2回実行委員会(東京都港区)
7.26	第1回事務局健全化ワーキンググループ
8.1	三学合同大会『ELR2012 東京』第3回実行委員会(東京農業大学)
8.3	第53回幹事会(応用生態工学会事務所)
8.9	第62回理事会(麹町NKビル2階 WEC会議室)
8.13	第16回総会委任状 配信
8.17	ニュースレター57号 発行(大会プログラム)
9.8	ELR2012 東京(第16回 大会) 研究発表会, 分科会, 自由集会(東京農業大学)
9.9	ELR2012 東京(第16回 大会) 研究発表会, 総会, 公開シンポジウム
9.10	ELR2012 東京(第16回 大会) 研究発表会, エクスカーション
9.11	ELR2012 東京(第16回 大会) エクスカーション
11.9~11.10	第11回北陸現地ワークショップ in 石川
12月	ニュースレター57号発行(電子配信)

会員状況報告(2012年8月1日現在)

— 入会者 —

年度	正・学生会員		賛助会員	
1997年度入会	No.1001～1048 No.7001～7689	(48名) (689名)	No,101～156	(56法人)
1998年度入会	No.8001～8171	(171名)	No,157～160	(4法人)
1999年度入会	No.9001～9101	(101名)	No,161～163	(3法人)
2000年度入会	No.20001～20123	(123名)		無し
2001年度入会	No.21001～21108	(108名)	No,164～165	(2法人)
2002年度入会	No.22001～22121	(121名)	No,166	(1法人)
2003年度入会	No.23001～23128	(128名)		無し
2004年度入会	No.24001～24118	(118名)	No,167～170	(4法人)
2005年度入会	No.25001～25113	(113名)	No,171	(1法人)
2006年度入会	No.26001～26090	(90名)		無し
2007年度入会	No.27001～27082	(82名)	No,172	(1法人)
2008年度入会	No.28001～28078	(78名)		無し
2009年度入会	No.29001～29072	(72名)		無し
2010年度入会	No.30001～30092	(92名)		無し
2011年度入会	No.31001～31065	(65名)	No.173	(1法人)
2012年8月現在	No.32001～32053	(53名)		無し
	計	2,251名※	計	73法人

※名誉・特別会員5名、海外会員16名を含む(正・学生会員のみ)の会員数：2,230名。

— 退会者 —

年度	正・学生会員	賛助会員
1997年度	正・学生会員：3名	賛助会員：3法人
1998年度	正・学生会員：8名	賛助会員：0法人
1999年度	正・学生会員：62名	賛助会員：0法人
2000年度	正・学生会員：80名	賛助会員：2法人
2001年度	正・学生会員：43名	賛助会員：6法人
2002年度	正・学生会員：61名	賛助会員：4法人
2003年度	正・学生会員：92名	賛助会員：2法人
2004年度	正・学生会員：102名	賛助会員：1法人
2005年度	正・学生会員：99名	賛助会員：6法人
2006年度	正・学生会員：80名	賛助会員：6法人
2007年度	正・学生会員：118名	賛助会員：6法人
2008年度	正・学生会員：60名	賛助会員：3法人
2009年度	正・学生会員：55名	賛助会員：0法人
2010年度	正・学生会員：41名	賛助会員：4法人
2011年度	正・学生会員：198名※	賛助会員：4法人
2012年8月現在	正・学生会員：13名	賛助会員：0法人
合計	1,104名	47法人

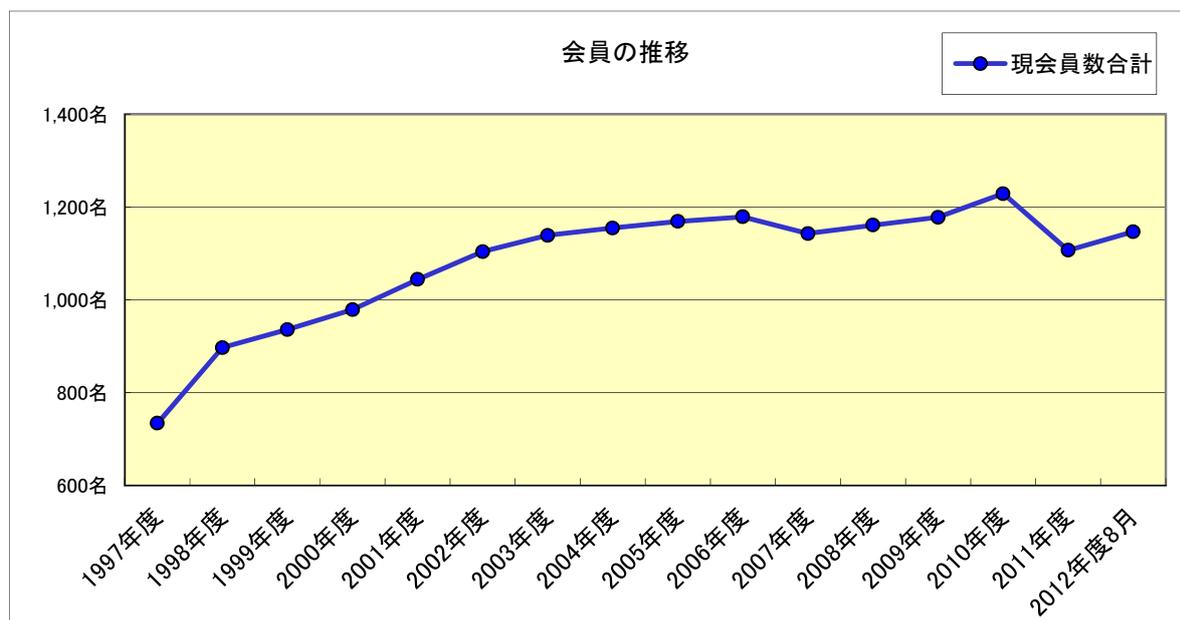
※年会費4年以上滞納者70名(2011年度末に退会扱い)、宛先不明者37名を含む。

— 現会員数 —

年度	総会員数	正会員	学生会員	名誉・特別 海外会員	賛助会員
2010年3月31日	1,229名	1,112名	94名	23名	33法人:49口
2011年3月30日	1,271名	1,147名	102名	22名	29法人:43口
2012年8月1日現在	1,147名	1,026名	100名	21名	26法人:39口
※2011年3月31日を持って、4年以上の会費滞納者、宛先不明者(107名)を退会扱いとした。					
国際英文誌購読会員数 (2012年8月1日現在)	124名	115名	8名	名誉会員:1名	3法人(7冊)

— 会員の推移 —

年度	年度入会者	年度退会者	現会員数
1997年度	737	3	734
1998年度	171	8	897
1999年度	101	62	936
2000年度	123	80	979
2001年度	108	43	1,044
2002年度	121	61	1,104
2003年度	127	92	1,139
2004年度	118	102	1,155
2005年度	113	99	1,169
2006年度	90	80	1,179
2007年度	82	118	1,143
2008年度	78	60	1,161
2009年度	72	55	1,178
2010年度	92	41	1,229
2011年度	65	187	1,107
2012年度8月	53	13	1,147



賛助会員名簿と口数

(2012 年度 8 月 1 日現在)

	会員番号	会員名	口数
1	104	(株)ニュージェック	1
2	111	(財)リバーフロント整備センター	2
3	112	(株)東京建設コンサルタント	1
4	114	清水建設(株)	1
5	115	八千代エンジニアリング(株)	1
6	116	パシフィックコンサルタンツ(株)	3
7	127	(株)建設環境研究所	3
8	128	西日本技術開発(株)	1
9	131	(株)建設技術研究所	3
10	135	(財)国土技術研究センター	1
11	136	(財)ダム水源地環境整備センター	3
12	137	いであ(株)	1
13	138	(株)日水コン	1
14	139	(株)北海道技術コンサルタント	1
15	140	日本工営(株)	2
16	145	応用地質(株)	2
17	148	(株)ドーコン	2
18	149	中電技術コンサルタント(株)	1
19	151	(財)河川環境管理財団	1
20	154	(株)エイトコンサルタント	1
21	155	国際航業(株)	2
22	165	(株)開発工営社	1
23	166	(株)四電技術コンサルタント	1
24	171	大成建設(株)	1
25	172	(株)沖縄環境保全研究所	1
26	173	北電総合設計株式会社 2011/06/14 : 入会	1
	合計	29 社(2011 年度)⇒26 社(2012 年度)	43⇒39

総会・理事会・幹事会の開催状況報告

1. 総会

- 平成23年9月17日(金) 10:30~11:30 石川県立音楽堂邦楽ホール
報告事項：平成22年度事業報告
審議事項：平成22年度決算・監査報告(参考:平成23年度事業実施状況・収支見込み),
平成24年度事業計画案,平成24年度予算案,第8期役員改選

2. 理事会

- 第56回(メール会議) 平成23年5月24日(火)~5月30日(月)
次期役員の選出方法,2011年度海外学会派遣研究者募集結果,事務局作業の軽減など
- 第57回 平成23年8月23日(金) 15:00~17:00(財)ダム水源地環境整備センター会議室
平成24年度予算案,中期計画に基づく検討項目,三学合同の全国大会,幹事長・幹事の推薦原案など
- 第58回 平成23年9月17日(土) 9:45~10:25 石川県立音楽堂邦楽ホール 和室
アンケート結果に見られる会員サービスの方向性など
- 第8期合同役員会 平成23年9月17日(土) 11:30~12:30 石川県立音楽堂邦楽ホール 和室
会長職務代行者の決定,副幹事長の選出などについてなど
- 第60回 平成24年2月16日(木) 10:00~12:00(財)ダム水源地環境整備センター会議室
テキスト刊行準備委員会(仮称)の立ち上げについて,東日本大震災に対する対応についてなど
- 第61回 平成24年6月7日(木) 13:30~15:30 水道橋 貸会議室「内海」3F
会誌査読料の廃止について,口座振替による会費請求の可否についてなど
- 第62回 平成24年8月9日(木) 10:00~12:00(財)ダム水源地環境整備センター会議室
第3次中期計画の見直し,実行予算の繰り越しにかかわる特別会計の新設,平成25年度予算案など

3. 幹事会

- 第47回(メール会議) 平成23年5月17日(火)~5月30日(月)
次期役員の選出方法,2011年度海外学会派遣研究者募集結果,事務局作業の軽減など
- 第48回 平成23年8月2日(火) 15:00~17:00 応用生態工学会 事務所(麴町)
平成22年度予算案,会費値上げ,テキストの作成についてなど
- 第49回 平成23年9月17日(土) 9:00~9:40 石川県立音楽堂邦楽ホール 和室
中期計画の見直し,事例集,講習会テキスト等の刊行に向けてなど
- 第8期合同役員会 平成23年9月17日(土) 11:30~12:30 石川県立音楽堂邦楽ホール 和室
- 第50回(メール会議) 平成23年11月28日(月)~12月16日(金)
中期計画のアクションプランについて,テキスト刊行委員会メンバーの決定など
- 第51回 平成24年1月18日(水) 10:30~15:00 応用生態工学会 事務所(麴町)
中期計画の見直し,テキスト等刊行委員会の立ち上げ,シンポジウム等におけるCPD認定プログラム化など
- 第52回(メール会議) 平成24年5月22日(火)~5月29日(火)
中期計画実行費の予算配分について,会誌査読料の廃止についてなど
- 第53回 平成24年8月3日(金) 10:00~12:00 応用生態工学会 事務所(麴町)
第3次中期計画の見直し,地域研究会の運営,平成24年度予算(案)など

委員会の開催状況報告

1. 会誌編集委員会

- ・平成23年5月14日(土) 13:30-15:30 応用生態工学会 事務所(麴町)
編集進捗状況, 編集作業上の課題, 査読のスピードアップ策についてなど
- ・平成23年9月15日(木) 17:40-19:10 金沢学院大学 教室420
編集進捗状況, 新編集システム, 担当編集委員用のマニュアル整備についてなど
- ・平成24年5月14日(月) 13:30-16:00 応用生態工学会 事務所(麴町)
編集進捗状況, 編集システムについて, 論文種類の新設など

2. 普及・連携委員会

- ・平成23年5月19日(木) 20:30~22:30 ホテルセンチュリー21 広島会議室
事務局作業の軽減について, 東日本大震災後の復興にかかわるアクションについて
- ・平成23年9月15日(木) 16:00-17:30 金沢学院大学 教室420
各地研究会の活動報告, 今後の予定, 応用生態工学会 岡山の立ち上げについて
- ・平成24年7月14日(土) 16:00~17:30, 20:00~21:30 沖縄市たてこホール他
各地の活動報告, 沖縄FSの評価・反省, 委員会予算案, 東北でのシンポジウム開催

3. 国際交流委員会

- ・平成23年9月16日(金) 11:30-13:00 金沢学院大学 教室420
若手海外派遣の審査規程(案)について
- ・平成24年5月7日(月)~5月11日(金) メール会議
2012年度海外学会派遣者についての審議

4. 情報サービス委員会

- ・平成23年9月15日(木) 16:00-17:30 金沢学院大学 教室421
「HPの改善についての意見」徴収のためのアンケートについて

5. 将来構想委員会

- ・平成23年9月16日(金) 12:00-12:30 金沢学院大学 教室421
中期計画の項目検討, 中期計画の見直し, 将来構想委員会の運営担当について

6. 大会実行委員会

- ・平成22年7月22日(木) 15:00~17:00 石川県庁1103会議室
実行委員の担当・分担, 金沢大会の実施方針, 公開シンポジウムのテーマなど
- ・平成23年2月15日(火) 15:30-17:30 石川県庁1101会議室
各部会報告(今後のスケジュールについて), その他について
- ・平成23年5月25日(水) 15:00-17:30 石川県庁1601会議室
各部会報告(今後のスケジュールについて), 予算(案), その他について
- ・平成23年7月27日(水) 15:30-17:30 石川県庁1601会議室
各部会報告, その他について

会誌「応用生態工学」編集状況報告

2012年8月17日現在

1) 会誌発行状況

1巻1号:	平成10年11月30日発行	掲載論文数8本 (原著2, 短報1, 意見5, 巻頭言, 書評)
2巻1号:	1999年 5月31日発行	特集「河川の自然復元」
2巻2号:	1999年11月19日発行	特集「ダム構造物の影響」
3巻1号:	2000年 7月21日発行	特集「日本の沿岸環境保全」
3巻2号:	2000年12月21日発行	特集「魚道の機能評価」
4巻1号:	2001年 7月17日発行	ミニ特集「健全な河川とは?」
4巻2号:	2001年12月27日発行	掲載論文数8本 (原著6, 事例研究1, 意見1, 巻頭言, 書評)
5巻1号:	2002年 8月10日発行	特集「長良川河口堰の影響に関するモニタリング評価」
5巻2号:	2003年 2月28日発行	特集「河川環境の保全と復元」
6巻1号:	2003年 8月31日発行	特集「東アジア太平洋地域の河川復元に向けて」
6巻2号:	2004年 3月31日発行	小特集「河川・都市における外来種問題とその対策」
7巻1号:	2004年 8月30日発行	掲載論文数10本 (原著5, 事例研究2, 短報1, 意見2)
7巻2号:	2005年 1月30日発行	特集「標津川再生事業の概要と再蛇行化実験の評価」
8巻1号:	2005年 8月 8日発行	特集「森・川・海の自然連鎖系を重視した有明海・八代海の再生」
8巻2号:	2006年 1月30日発行	特集「野生生物の生息・生育適地推定と保全計画」
9巻1号:	2006年 7月25日発行	掲載論文数7本 (原著3, 事例研究3, 総説1, 巻頭言, 書評)
9巻2号:	2006年12月20日発行	掲載論文数7本 (原著6, 事例研究1, 書評)
10巻1号:	2007年12月10日発行	10周年記念特集号 特集「土木工学と生態学の壁はとりのぞかれたか?」
10巻2号:	2007年12月10日発行	掲載論文数10本 (原著8, 事例研究1, 総説1)
11巻1号:	2008年 6月30日発行	掲載論文数10本 (原著5, 事例研究4, 意見1)
11巻2号:	2008年12月10日発行	掲載論文数 9本 (原著4, 事例研究2, 総説2, 意見1, 書評)
12巻1号:	2009年 7月30日発行	掲載論文数 6本 (原著3, 事例研究3, 書評)
12巻2号:	2009年12月30日発行	掲載論文数 6本 (原著4, 事例研究2, 書評)
13巻1号:	2010年 7月30日発行	掲載論文数 6本 (原著3, 事例研究3, 短報1, 意見1)
13巻2号:	2011年 1月30日発行	掲載論文数 6本 (原著3, 事例研究2, 短報1, 意見1, 書評)
14巻1号:	2011年 7月31日発行	掲載論文数 6本 (原著4, 事例研究1, 総説1, 意見1)
14巻2号:	2011年12月31日発行	掲載論文数 6本 (原著3, 事例研究2, 短報1,)
15巻1号:	2012年 7月31日発行	掲載論文数 13本 (原著5, 事例研究4, 短報3, トピックス1)
15巻2号:	2012年12月 発行予定	(特集を予定)

2) 論文投稿状況(2012年8月17日現在)

年 度	総 数	受理数	却下数	校閲中数	(英文, 和文)
1998年 (H10)	19	18	1	0	(1, 17)
1999年 (H11)	25	24	1	0	(2, 22)
2000年 (H12)	34	30	2	0	(0, 34)
2001年 (H13)	34	27	7	0	(2, 32)
2002年 (H14)	24	17	7	0	(6, 18)
2003年 (H15)	27	21	6	0	(4, 23)
2004年 (H16)	24	21	3	0	(1, 23)
2005年 (H17)	37	27	10	0	(1, 36)
2006年 (H18)	26	16	10	0	(0, 26)
2007年 (H19)	32	14	7	11	(0, 32)
2008年 (H20)	29	16	9	4	(0, 26)
2009年 (H21)	20	1	3	16	(0, 12)
2010年 (H22)	28	6	8	14	(0, 13)
2011年 (H23)	12	3	1	8	(0, 29)
2012年 (H24)	12 [*]	1	2	9	(0, 10)

(註：却下数には、C判定で未投稿を含む)

※2012/08/17 現在の総数で、EM上で校閲中のもの(特集号)

2011年度(平成23年度)事業報告

1. 会誌の発行

- ・応用生態工学会会誌「応用生態工学」は、2008年度より、(独)科学技術振興機構(JST)が運営している科学技術情報発信・流通総合システム(J-STAGE)への掲載を進め、J-STAGE利用した会誌編集を2009年度より開始した。
- ・年2回の会誌の発行を継続し、2011年度は平成23年7月31日に14巻1号(原著4, 事例研究1)と平成23年12月31日に14巻2号(原著3, 事例研究2)を発行した。
- ・2012年度は、平成24年7月31日に15巻1号(原著5, 事例研究4, 短報3, トピックス1)を発行している。

2. ニュースレターの発行

- No. 52 (平成23年5月31日発行) : 理事会・幹事会報告, 次期役員募集・推薦委員会報告等
- No. 53 (平成23年8月4日発行) : 次期役員募集・推薦委員会報告, アンケート調査結果等
- No. 54 (平成23年12月7日発行) : 第15回総会報告, 金沢大会報告等
- No. 55 (平成24年2月29日発行) : 理事会・幹事会報告, 平成24年度会費納入依頼等

3. 主催・共催・後援行事の開催

<主催>

(1) 金沢大会 : 金沢学院大学, 石川県立音楽堂 : 平成23年9月14~17日

- ・応用生態工学会第15回全国大会が平成23年9月14日から17日の4日間にわたり、金沢で開催された。研究発表会は金沢学院大学、公開シンポジウムは石川県立音楽堂邦楽ホールを会場とした。
- ・エクスカッションは一日コースと半日コースの2コースで合計59名の参加、研究発表会(口頭発表とポスター発表)は260名、懇親会は201名、公開シンポジウムは230名だった。エクスカッションは、『手取川(水源の森から河口まで)』の一日コースと『金沢の里山とまちなか用水コース』の半日コースを開催した。一日コースでは手取川扇状地を視察し、地域の歴史などの理解を深め、半日コースでは里山研究や辰巳ダムの現場を調査、武家屋敷跡の古い用水などを散策した。
- ・研究発表は、9月15日、16日に口頭発表43編、ポスター発表50編が行われ、多くの事例・研究報告がなされた。
- ・自由集会は、9月15日、16日に4つの自由集会在開催され、日韓応用生態セミナー実行委員会主催の「エコシステムアプローチによる河川・流域の自然復元」、「水田・水路生態系における魚類研究の現状と課題」、「絶滅が危惧されるヤツメウナギ類の進化、生態そして保全を考える」「わが国における天然記念物4魚種の応用生態工学的保全の現状 -ECE的アプローチの評価と今後-」が実施された。
- ・公開シンポジウムは、最終日(9月17日)に『エコリージョンを考える』～生物多様性と地域の歴史と伝統に基づく流域管理～と題し、石川県立音楽堂邦楽ホールで開催された。

- (2)応用生態工学会 札幌分科会 ザリガニシンポジウム 2011：平成 23 年 10 月 24 日
主 催：応用生態工学会札幌 ザリガニ研究会
- (3)応用生態工学会 新潟 第 10 回北陸現地ワークショップ in 新潟：平成 23 年 10 月 28～29 日
テーマ：越後平野の生物多様性保全と再生への取り組み」～自然のダイナミズムと流域の生態系を考える～
主 催：応用生態工学会新潟
後 援：国土交通省北陸地方整備局, 農林水産省北陸農政局, 環境省関東地方環境事務所, 新潟県, 新潟市, 佐渡市他
- (4)応用生態工学会 東京 第 16 回勉強会：平成 23 年 11 月 18 日
テーマ：「閉鎖性水域における水質問題の現状と課題」
主 催：応用生態工学会東京
- (5)応用生態工学会 福井 平成 23 年度地域勉強会：平成 23 年 11 月 19 日
テーマ：日野川の河原を再生させるための樹林化対策と河原の利活用
主 催：応用生態工学会福井
共 催：(財) 福井県建設技術公社
協 力：日野川に砂礫河原をとりもどす会
後 援：国土交通省福井河川国道事務所, 福井県河川課, 鯖江市, 越前市, 福井高専
- (6)応用生態工学会 名古屋 都田川フィールドシンポジウム：平成 23 年 11 月 25～26 日
テーマ：流域の生物多様性と市民参加による保全活動
主 催：応用生態工学会名古屋, 富士常葉大学社会環境学部
協 力：静岡県
- (7)応用生態工学会 沖縄 第 4 回全国 フィールドシンポジウム in 沖縄：平成 23 年 7 月 13～14 日
テーマ：沖縄における河川の自然再生とワイズユースマングローブとリュウキュウアユを健全性の指標として～考えよう！河川生態系の賢い利用と管理～
主 催：応用生態工学会
共 催：(財) 沖縄県環境科学センター
後 援：沖縄総合事務局開発建設部, 環境省那覇自然環境事務所, 沖縄県土木建築部, 沖縄県環境生活部, リュウキュウアユを蘇生させる会, 奥川自然再生協議会
- (8)応用生態工学会 東京 東京セミナー『河川生態系の多様性と管理』：平成 23 年 7 月 13 日
テーマ：河川生態系の多様性と管理
主 催：応用生態工学会東京, 埼玉大学
後 援：国土交通省関東地方整備局
- (9)応用生態工学会 札幌 「本来の川を取り戻すために…その 7」：平成 23 年 7 月 13 日
テーマ：“多自然川づくり”と氾濫原ならびに水路実験観察会「上川盆地～神居古潭の石狩川の地形」
主 催：応用生態工学札幌
共 催：独立行政法人土木研究所 寒地土木研究所

<共催>

- (1) 日本生態学会第四回自然再生講習会：平成23年10月29～30日
- (2) 第14回河川生態学術研究会 研究発表会：平成23年11月17日
- (3) 第26回沿岸環境関連学会連絡協議会シンポジウム：平成24年2月5日

<後援>

- (1) 第8回水辺・流域再生に関わる国際フォーラム：平成23年11月11日
「減災と環境保全の視点から都市河川再生を考える」（東京都文京区）
- (2) 第2回内湾の機能回復シンポジウム：平成23年11月30日
「漁業生産を維持するための水環境」（東京都世田谷区）

4. 国際交流：海外学会派遣（国際交流委員会）

平成23年度海外学会派遣研究者・技術者として、下記の派遣先に3名を派遣することになり、各5万円ずつ助成することが認められた。

●派遣研究者：平岡 真合乃氏（東京農工大学農学府）

名 称：AGU 2011 Fall Meeting (American Geophysical Union)

開催月日：2011年12月5日～9日

開催国・地名：サンフランシスコ, アメリカ合衆国

●派遣研究者：大谷 壮介氏

名 称：第9回世界閉鎖性海域環境保全会議(EMECS9) (財団法人 国際エメックスセンター)

開催月日：2011年8月28日～31日

開催国・地名：ボルチモア, アメリカ合衆国

●派遣研究者：尾花 まき子氏（名古屋大学大学院）

名 称：第18回生態系モデリングに関する国際会議（国際生態系モデリング学会，北京師範大学）

開催月日：2011年9月20日～23日

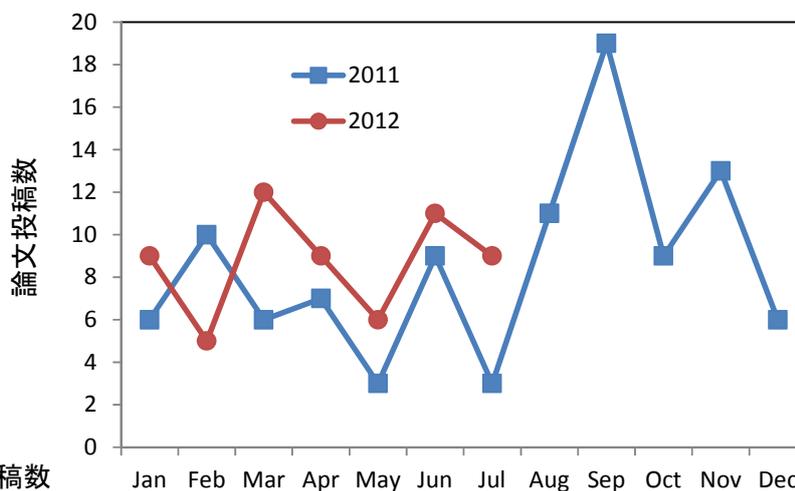
開催国・地名：北京, 中国

5. Landscape and Ecological Engineering 誌の投稿の動向について

(1) 投稿の状況について

1) 投稿数の推移：

- 2011 年投稿数：102 報
- 2012 年投稿数（～8/12）64 報 一月平均約 9 報弱
- 昨年 IF がついた 7 月あたりから投稿数が増えている。



2) 国別論文投稿数

- 日本, 韓国, 中国からの投稿が、約 70%以上を占めている。Landscape and Ecological Engineering 誌においては日本からの投稿が最も多いが、近年、中国からの投稿が徐々に増加傾向にある。投稿元の国の数についても近年増加傾向(2011年は18カ国)にあり、より国際的な雑誌になっている。

日本、韓国、中国からの投稿割合の推移

	2009	2010	2011	2012
JAPAN	65.7	60.8	39.2	34.9
KOREA, REPUBLIC OF	17.2	10.8	23.5	11.1
CHINA	8.1	9.5	14.7	20.6
合計	90.9	81.1	77.5	66.7

3) 投稿時の manuscript classification (分野の選択※)

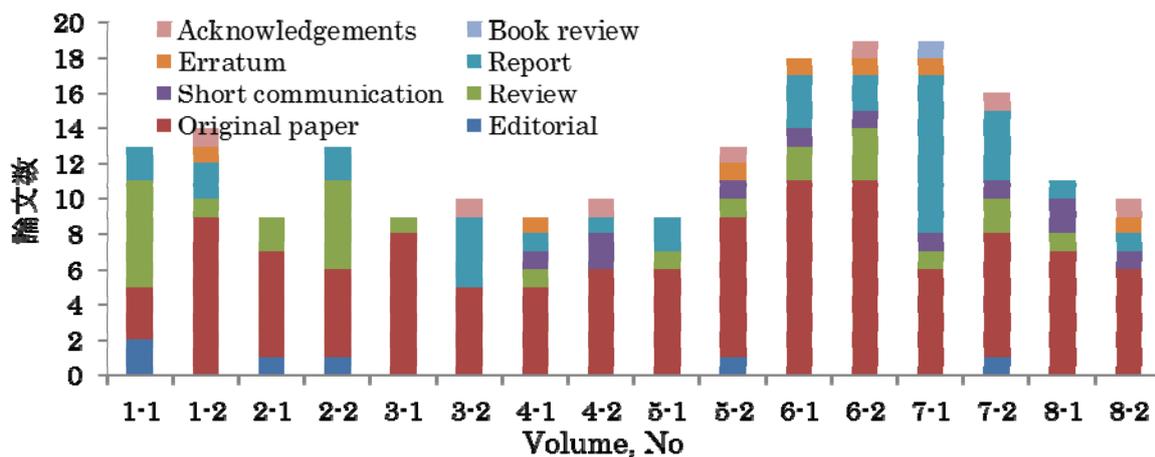
※ このシステムはより適切な担当編集者に担当をしていただくため 2012 年より開始したシステム。

- 景観生態の論文が多くを占めている。特に Landscape Structure のキーワードを入れる論文が非常に多くなっている。(以前と比較して応用生態の論文が減少傾向の可能性あり)

2	Landscape Ecology	21
2.6	Landscape structure	21
2.3	Ecological planning	15
1	Ecology and Civil Engineering	5
1.1	River	6
3	Revegetation Technology	4
3.3	Response of tree to environment	8

(2) 論文掲載状況

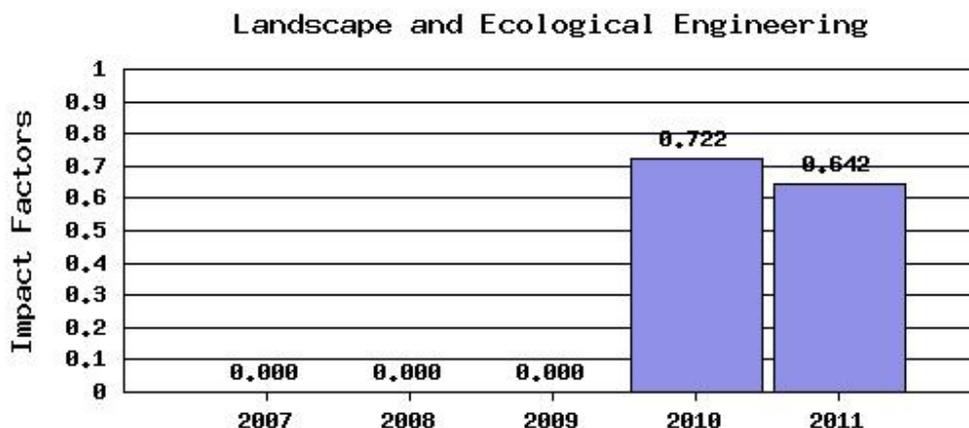
- 2011 年以降、IF を考慮して各号掲載論文数を 10 編程度までに抑えている。



(3) 国際的な評価 (Impact Factor※の現状と今後の編集方針の検討)

- LEE の IF は一旦減少しているが、これは 2010 年の発行数が多かったためである。つまり、発行数が多すぎると、IF は減少する傾向にあるため、適切な発行本数を維持する必要がある。現在では、年間約 20 本程度を目安に編集を行っているが、引用数のある程度見ながらコントロールを行う必要がある。
- 来年度予想：IF=1.0

IFのこれまでの変動



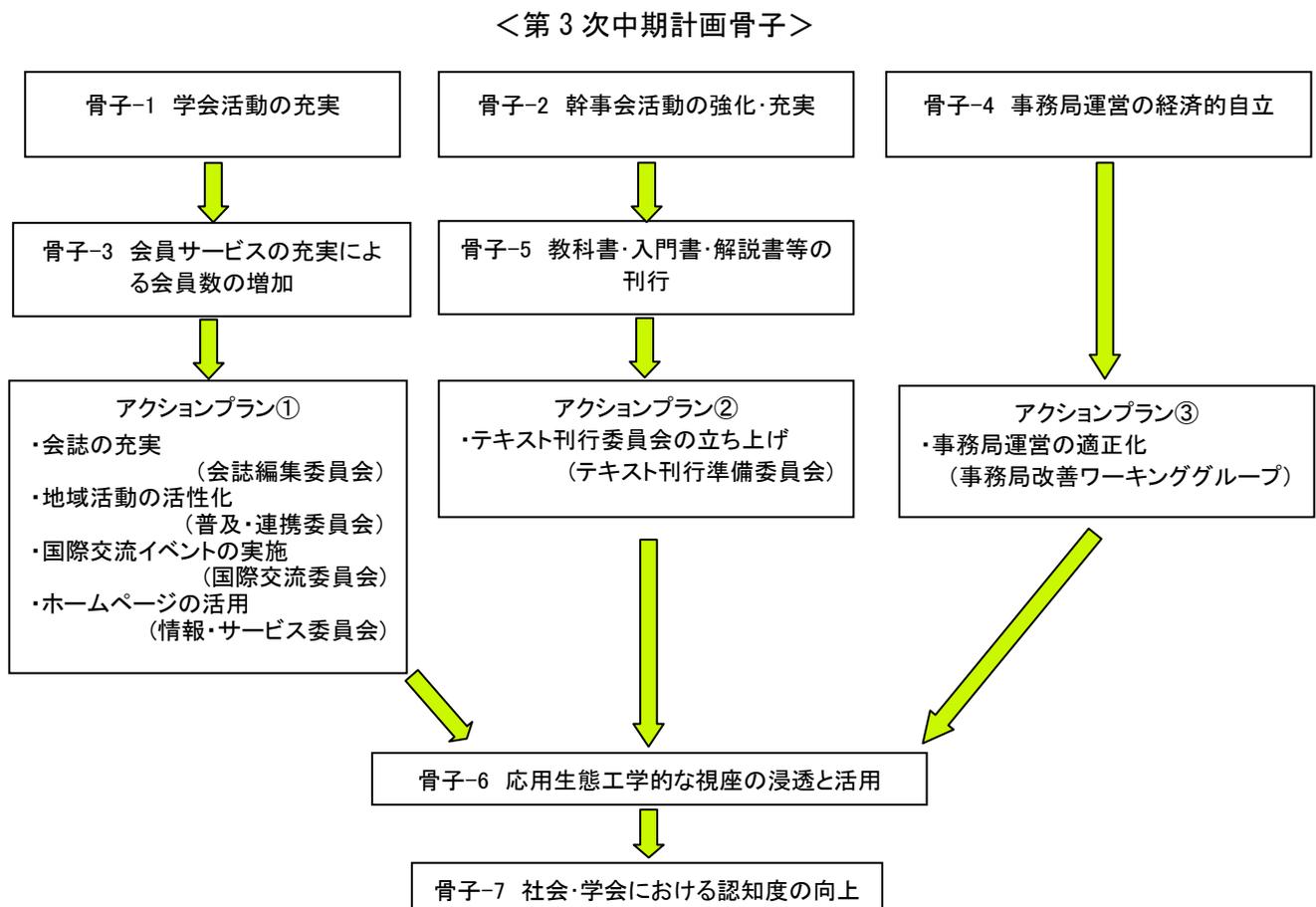
※: Impact factor : 例として 2012 年発行の Impact factor2011 は、以下の計算式で計算できる：
 $IF_{2011} = (\text{LEE で出版された 2009,2010 年の論文のうち、2011 年に出版された論文で引用された数}) / (\text{LEE の 2009,10 年の出版数})$

【第3次中期計画中間報告】

1. 第3次中期計画の骨子について

当初、並列に表記された7つの中期計画骨子は、階層構造となることが確認された。これに伴い、2012年度以降、3つのアクションプランを柱として第3次中期計画を推進することが、第61回理事会で決まった。

計画実行費として計上された予算(案)は、アクションプラン①の中の地域活動の活性化、テキスト刊行委員会の立ち上げ、事務局改善WGの3つに重点配分されることが、幹事会・理事会の継続審議を通して承認された。



2. アクションプランの実施

それぞれの実施主体による具体的なアクションプランは、以下の通りである。

2.1 アクションプラン①の実施

1) 会誌編集委員会

- ・骨子-1(学会活動の充実)として、新たなシステム(J-STAGE3)を活用し、査読の迅速化を図る。
- ・骨子-3(会員サービスの充実)として、新たなカテゴリー「レポート」を設け、会誌の充実を図る。
- ・実行予算については、特に計上しない。

2) 普及・連携委員会（各地域研究会）

- ・骨子-1として、地域におけるフィールド・シンポジウムや各種イベントを開催し、応用生態工学の広報・普及や市民との連携を促進する。
- ・骨子-3として、新たな地域研究会の立ち上げや災害復興に関する活動などを活性化する。
- ・普及・連携委員会（各地域研究会）の活動は、直接的に会員の増加に繋がることから、重点的な予算配分を行うことが幹事会・理事会で検討された。この件については今後も検討課題の一つとなるが、普及・連携委員会から申し出のあった120万円については、第3次中期計画が終了するまでの予算案として了承された。

なお、普及・連携委員会で予算化されたアクションプラン実行費については、どこに重点的に配分するかは普及・連携委員会（委員長）の裁量に任せることになった。

①沖縄フィールドシンポジウムへの投資：40万円（実施済み）

②WS助成金として：30万円（1件の上限5万円の枠は廃止）

③応用生態工学会長野・岡山等の新規立ち上げ補助として：20万円

- ・新規地域組織立ち上げの補助：長野県などでの新規立ち上げに際してのWSについては、新入会員募集の大きな機会に位置づけ、別枠の助成を行う。

④東日本大震災復興に関する応用生態工学会としての活動費：30万円

合計：120万円

3) 国際交流委員会

- ・骨子-1, 骨子-3として、国内他分野との交流を含む国際交流イベントを2年に1回、開催する。
- ・実行予算は、2011年度開催で約50万円を使用している。2013年度の予算については未定となっている。

4) 情報サービス委員会

- ・骨子-1, 骨子-3として、ホームページの更なる活用による会員サービスの向上を図る。
- ・実行予算については特に計上しないが、必要に応じてソフト等を購入する。

2.2 アクションプラン②の実施

- ・骨子-2（幹事会活動の強化・充実）として、2012年度は、テキスト刊行委員会（仮称）の立ち上げを中心に活動する。来期以降は、各委員会で検討して頂いた実施計画の中から課題を抽出し、各委員会と共に中期計画の達成を目指す。
- ・骨子-5（教科書・入門書・解説書等の刊行）として、幹事会を中心に、テキスト刊行準備委員会がすでに活動を開始している。今後は、テキスト刊行委員会の立上げに向けた具体的な活動に移り、2013年度までに完了する。
- ・2012年度見込みとして、実行予算50万円を計上する。（委員会交通費、印刷代等）

2.3 アクションプラン③の実施

- ・骨子-4（事務局運営の経済的自立）として、事務局改善ワーキンググループがすでに活動している。会員サービスを維持しつつ事務局の経済的自立を図る事を目的に、今後は、事務局改善ワーキンググループを中心に、事務局運営の健全化を目指した実務的な検討に入る。
- ・実行予算として、10万円を計上する。（旅費、会議費）

2.4 アクションプランの目的・評価

- ・骨子-6（応用生態工学的な視座の浸透）として、技術援助委員会を中心に、他の学術団体との共催・後援等を通じて学術的な技術援助の実績を広げ、応用生態工学的な視座の浸透を図る。
- ・骨子-7（応用生態工学の認知度の向上）については、上記骨子 1-から骨子-6 までの活動を通じて、その集大成として応用生態工学の認知度が向上し、結果として会員増が図られる。

3. アクションプランの予算(案)

第 51 回幹事会（2012 年 1 月 18 日開催）で第 3 次中期計画について議論され、中期計画の実行予算については 4 年間の計画期間の中でフレキシブルな利用が必要との意見が出された。

この意見に対し、第 61 回理事会（2012 年 6 月 7 日開催）では、中期計画実行予算については単年度決算とはせずに、特別会計で行うようにとの意見が出された。

これを受け、事務局では以下の特別会計予算案を第 62 回理事会に提出し、承認された。

特別会計は、2014 年 3 月 31 日の第 3 次中期計画終了時に収支決算を行い、一般会計に繰り入れた後、終了とする。

アクションプラン予算(案)

特別会計	2013年度 予 算	増減要因	2012年度 見込み	2011年度 決 算	2010年度 決 算※
特別会計 収入	1,539,202		2,149,202	1,500,000	0
前年度実行予算残	639,202	2012年度予算残	849,202	0	0
一般会計からの繰り入れ	900,000	2013年度中期計画実行予算	1,300,000	1,500,000	0
その他の収入	0		0	0	0
特別会計 支出	1,530,000		1,510,000	650,798	0
普及・連携委員会活動費	300,000	助成金枠30万円	900,000	0	0
国際シンポジウム実行費	500,000	2年に1度の開催	0	500,418	0
テキスト刊行準備委員会	500,000	テキスト刊行委員会立ち上げ	500,000	150,380	0
事務局改善WG	100,000	事務局改善WG会議費	100,000	0	0
情報サービス委員会、他	130,000	ホームページソフト代等	10,000	0	0
収支差額(次年度繰越分)	9,202		639,202	849,202	0

※2010年度は、中期計画実行費は予算化されていない。

第1号議案

2011年度決算報告

6. 決算について

(1)「2011年度正味財産増減計算書」、(2)「貸借対照表」、(3)「財産目録」および(4)「2008年度以降の決算経過総括表」に2011年度決算の概要を示した。

正味財産の収入・支出はともに予算に対して増額となった。

収入の部では、会費収入で賛助会員会費の落ち込みから約108万円の減額となった。一方で、事業収入では、研究発表会参加費の約190万を含め約200万円の増額となっている。

また、助成金収入で、例年、次年度に入金があった河川整備基金が年度内に入金されたため、予算に対して120万円の増額となっている。この結果、合計で約250万円の増額となった。(正味財産増減計算書：収入の部 参照)

支出の部では、管理費で約20万円を削減したが、事業費で大会費が約168万円、会誌編集費で約24万円の支出増となり、事業費の合計では約186万円の増額となっている。この結果、支出全体では約166万円の支出増となった。(正味財産増減計算書：支出の部 参照)

現金・資産を含む正味財産は、期首残高より約25万円増額し、19,046,030円となった。このうち、現金・貯金収支による次年度への財産移動は、未収金、前払費用等が発生しなかったため、預り金を除く18,752,365円となる。なお、この中には、特別会計の2011年度実行予算残849,202円も含まれている。(貸借対照表、2008年度以降の決算経過総括表 参照)

第62回理事会(2012年8月9日開催)の決議を受けて、2011年度決算では当初予算にはなかった特別会計枠を設け、別枠で第3次中期計画実行費の決算を行う事となった。

以下、収支において主要・重要事項について報告する。

7. 収入について

(1) 会費収入

会員からの年会費収入については、賛助会員の減少(2010年度は-30万円、2011年度は-90万円)により、予算に対し約108万円の減収となった。しかし、2010年度の会費収入実績が9,132,400円であったのに対し、2011年度は約56万円増の9,692,350円となり、正会員の会費値上げの効果が見られる。賛助会員については、当初予定した48口に対して3企業が退会(3月31日現在)し、39口(26法人)まで減少した。

(2) 助成金収入(河川整備基金および地域活動における協賛金・寄付金)

助成金・協賛金として以下に示す7件、総計3,163,840円の助成が得られた。

①2010年度河川整備基金	1,400,000円
②2011年度河川整備基金	1,200,000円
③(財)福井県建設技術公社 協賛金	38,000円
④応用生態工学会福井 個人寄付金	22,240円
⑤新潟県5団体 寄付金	190,000円
⑥金沢市観光交流課 大会助成金	100,000円
⑦石川県 大会助成金	213,600円

8. 支出について

(1) 各地域研究会口座

各地域の2011年度（単年度）の収支は、以下の通りである。

2010年度の繰越金2,368,006円に対し、2011年度の繰越金は2,967,821円で、約60万円の増額となった。

表 7-1 2010年度 地域口座収支

講座	地域名	2010年度 繰越金	収入	助成金	収入合計	支出合計	収支差額	2011年度 繰越金
1	札幌	¥143,385	¥549,019	¥0	¥549,019	¥360,835	¥188,184	¥331,569
2	仙台	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0
3	東京	¥28,443	¥72,757	¥0	¥72,757	¥62,703	¥10,054	¥38,497
4	金沢	¥385,439	¥916,084	¥0	¥916,084	¥653,432	¥262,652	¥648,091
5	大阪	¥367,834	¥58	¥0	¥58	¥315	¥-257	¥367,577
6	広島	¥12,418	¥505,119	¥0	¥505,119	¥479,042	¥26,077	¥38,495
7	名古屋	¥520,856	¥48,445	¥0	¥48,445	¥150,105	¥-101,660	¥419,196
8	福岡	¥414,454	¥179,106	¥0	¥179,106	¥176,135	¥2,971	¥417,425
9	福井	¥458,364	¥97,992	¥60,240	¥158,232	¥160,910	¥-2,678	¥455,686
10	富山	¥27,813	¥4,010	¥0	¥4,010	¥500	¥3,510	¥31,323
11	松山	¥9,000	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥9,000
12	新潟	¥0	¥762,022	¥190,000	¥952,022	¥760,483	¥191,539	¥191,539
13	那覇	¥0	¥51,000	¥0	¥51,000	¥31,577	¥19,423	¥19,423
合計		¥2,368,006	¥3,185,612	¥250,240	¥3,435,852	¥2,836,037	¥599,815	¥2,967,821

(2) 第15回金沢大会経費

9月に実施した第15回金沢大会の収支は、約25万円の黒字であった。

表 7-2 2010年度 大会経費収支

区分	内容	金額	合計金額
収入	研究発表会 参加費	¥1,115,725	¥5,574,028
	大会懇親会費	¥753,000	
	エクスカーション参加費	¥104,500	
	大会（弁当代等）参加費	¥85,500	
	大会広告費	¥1,110,000	
	河川整備基金, 助成金	¥1,513,600	
	現金収入	¥891,703	
支出	公開シンポジウム	¥1,815,049	¥5,329,506
	研究発表会	¥1,474,573	
	大会懇親会費	¥1,540,888	
	現金支出	¥498,996	
収支差額（大会通帳残）		¥244,522	

(1) 2011年度 正味財産計算書

自 2011年4月1日 至 2012年3月31日

収入の部

(単位=円)

科 目	2011年度 予 算 額 (A)	2011年度 実 績 額 (B)	増減の対比 (A) - (B)	備 考
1. 会 費 収 入	10,770,000	9,692,350	1,077,650	
(1) 正 会 員 会 費	5,750,000	5,708,350	41,650	
(2) 学 生 会 員 会 費	220,000	84,000	136,000	
(3) 賛 助 会 員 会 費	4,800,000	3,900,000	900,000	
2. 雑 収 入	152,000	301,013	△ 149,013	
(1) 会 誌 編 集 収 入	150,000	152,459	△ 2,459	
(2) 広 告 収 入	0	0	0	
(3) 受 取 利 息 等	2,000	148,554	△ 146,554	所得税還付金+利子
3. 事 業 収 入	4,490,000	6,483,480	△ 1,993,480	
(1) 講 座 1 参 加 費	500,000	548,990	△ 48,990	札幌
(2) 講 座 2 参 加 費	200,000	0	200,000	仙台
(3) 講 座 3 参 加 費	30,000	38,500	△ 8,500	東京
(4) 講 座 4 参 加 費	0	486,000	△ 486,000	金沢
(5) 講 座 5 参 加 費	300,000	0	300,000	大阪
(6) 講 座 6 参 加 費	100,000	361,720	△ 261,720	広島
(7) 講 座 7 参 加 費	200,000	48,365	151,635	名古屋
(8) 講 座 8 参 加 費	200,000	13,500	186,500	福岡
(9) 講 座 9 参 加 費	100,000	19,500	80,500	福井
(10) 講 座 10 参 加 費	100,000	4,000	96,000	富山
(11) 講 座 11 参 加 費	100,000	0	100,000	松山
(12) 講 座 12 参 加 費	400,000	712,000	△ 312,000	新潟
(13) 講 座 13 参 加 費	100,000	1,000	99,000	那覇
(14) 研 究 発 表 会 参 加 費	1,900,000	3,805,625	△ 1,905,625	
(15) 会 誌 団 体 購 読 収 入	200,000	200,000	0	
(16) 会 誌 等 販 売	60,000	86,780	△ 26,780	
(17) そ の 他 事 業 収 入	0	157,500	△ 157,500	
4. 英 文 誌 関 連 収 入	1,288,700	1,150,100	138,600	
(1) LEE 購 読 料	938,700	800,100	138,600	
(2) LEE 広 告 掲 載 収 入	350,000	350,000	0	
5. 助 成 金 収 入	1,600,000	3,163,840	△ 1,563,840	
(1) 河 川 整 備 基 金 収 入	1,400,000	2,600,000	△ 1,200,000	2ヶ年分の入金
(2) 助 成 金 収 入	200,000	563,840	△ 363,840	
当 期 収 入 合 計	18,300,700	20,790,783	△ 2,490,083	

支出の部

(単位=円)

科 目	2011年度 予 算 額 (A)	2011年度 実 績 額 (B)	増減の対比 (A) - (B)	備 考
1. 管 理 費	4,750,000	4,544,382	205,618	
(1) 家賃・水道光熱費	1,680,000	1,704,983	△ 24,983	
(2) リース料	470,000	465,990	4,010	
(3) 通 信 費	135,000	550,010	△ 415,010	
(4) 旅 費 交 通 費	400,000	307,240	92,760	
(5) 文 具 消 耗 品 費	400,000	312,945	87,055	
(6) 事 務 局 給 与	1,200,000	700,000	500,000	
(7) 顧 問 料	150,000	148,225	1,775	源泉預り金含む
(8) 支 払 手 数 料	25,000	77,391	△ 52,391	
(9) 函 書 費 ・ 会 費	10,000	0	10,000	
(10) 租 税 公 課	70,000	208,927	△ 138,927	
(11) 雑 費	210,000	68,671	141,329	
2. 事 業 費	10,930,000	12,787,896	△ 1,857,896	
イ. 会誌編集費	2,800,000	3,037,165	△ 237,165	アルバイト代含む
ロ. NL発行・会員募集費	250,000	276,884	△ 26,884	
(1) NL 発 行 費	200,000	269,969	△ 69,969	NL印刷費含む
(2) 会 員 募 集 費	50,000	6,915	43,085	パンフレット印刷
ハ. 会 議 費	1,270,000	1,206,889	63,111	
(1) 総 会 費	30,000	75,519	△ 45,519	
(2) 理 事 会 費	600,000	557,470	42,530	
(3) 幹 事 会 費	640,000	573,900	66,100	
ニ. 委員会活動費	1,130,000	1,086,126	43,874	
(1) 委 員 会 関 係 費	980,000	936,126	43,874	
(2) 海 外 派 遣 費	150,000	150,000	0	
ホ. 大 会 費	3,150,000	4,830,510	△ 1,680,510	
(1) 公 開 シ ン ポ ジ ウ ム	2,500,000	1,815,049	684,951	河川整備基金充当
(2) 研 究 発 表 会	350,000	1,474,573	△ 1,124,573	
(3) 大 会 懇 親 会 費	300,000	1,540,888	△ 1,240,888	

科 目	2011年度 予 算 額 (A)	2011年度 実 績 額 (B)	増減の対比 (A) - (B)	備 考
へ. 講座実施費	2,330,000	2,350,322	△ 20,322	
(1) 講座 1 費用	500,000	360,835	139,165	札幌
(2) 講座 2 費用	200,000	0	200,000	仙台
(3) 講座 3 費用	30,000	15,620	14,380	東京
(4) 講座 4 費用	0	553,432	△ 553,432	金沢
(5) 講座 5 費用	300,000	315	299,685	大阪
(6) 講座 6 費用	100,000	385,019	△ 285,019	広島
(7) 講座 7 費用	200,000	150,105	49,895	名古屋
(8) 講座 8 費用	200,000	10,595	189,405	福岡
(9) 講座 9 費用	100,000	82,418	17,582	福井
(10) 講座 10 費用	100,000	500	99,500	富山
(11) 講座 11 費用	100,000	0	100,000	松山
(12) 講座 12 費用	400,000	760,483	△ 360,483	新潟
(13) 講座 13 費用	100,000	31,000	69,000	那覇
3. 中期計画実行費	1,500,000	1,500,000	0	特別会計に繰入
4. 英文誌関連費	1,118,700	1,130,700	△ 12,000	
(1) 英文誌購読料	938,700	980,700	△ 42,000	
(2) ICLEE事務局維持費	150,000	150,000	0	
(3) 雑費	30,000	0	30,000	
当期支出合計	18,298,700	19,962,978	△ 1,664,278	
当期収支差額	2,000	827,805	—	
当期正味財産増減額	—	254,232	—	
正味財産期首残高	—	18,791,798	—	
正味財産期末残高	—	19,046,030		

注)現金・貯金の財産移動は以下の通りである。

	前期末残高	当期末残高
現金・預金	17,075,358	18,752,365
未収入金	1,400,000	0
前払費用	0	0
計	18,475,358	18,752,365
預り金	0	22,775
次年度移動額	18,475,358	18,729,590
当期収支差額	—	254,232

(2) 貸借対照表
(2012年3月31日現在)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】	18,752,365	【流動負債】	22,775
現 金	162,465	預 り 金	22,775
普 通 預 金	5,070,803	負 債 合 計	22,775
振 替 貯 金	8,502,057		
定 額 預 金	5,017,040		
未 収 入 金	0		
前 払 費 用	0		
【固定資産】	316,440		
電 話 加 入 権	76,440		
敷 金	240,000	正 味 財 産 の 部	
		【正味財産】	19,046,030
		正 味 財 産	19,046,030
		(うち正味財産増加額)	254,232
		正味財産の部合計	19,046,030
資 産 合 計	19,068,805	負 債 及 び 財 産 合 計	19,068,805

(3) 財産目録
(2012年3月31日現在)

資産の部

(単位=円)

科 目	摘 要	金 額
現 金		(162,465)
普 通 預 金	三菱東京UFJ銀行 麹町中央支店	2,884,320
同	北洋銀行 北七条支店	312,810
同	三菱東京UFJ銀行 大宮支店	9,817
同	北國銀行 金沢中央支店	601,700
同	みずほ銀行 天満橋支店	358,617
同	広島銀行 大河支店	38,495
同	三菱東京UFJ銀行 柳橋支店	419,196
同	福岡銀行 渡辺通支店	417,425
同	(松山)銀行	9,000
同	沖縄海邦銀行	19,423
普通預金計 (5,070,803)
振 替 貯 金	(事務局) 00140-7-404275	7,577,984
同	(大会口座) 10000-29124981	244,522
同	(仙台) 02280-8-92496	0
同	(福井) 00790-1-100369	455,686
同	(富山) 13270-17520631	31,323
同	(新潟) 11270-14664511	191,539
通 常 預 金	(事務局) 89535861	1,003
郵便貯金計 (8,502,057)
定 額 預 金	¥1,000,000-×5口	5,017,040
定額預金計 (5,017,040)
前 払 費 用	来年度会場費	0
電 話 加 入 権	事務局電話	76,440
敷 金	三輪 雅男(麹町ロイヤルビル405)	240,000
資 産 合 計		19,068,805

負債の部

科 目	摘 要	金 額
預 り 金	源泉所得税	22,775
負 債 合 計		22,775
差 引 正 味 財 産		19,046,030

(4) 2011年度 特別会計収支計算書

自 2011年4月1日 至 2012年3月31日

特別会計 収入の部

(単位=円)

科 目	2011年度 予 算 額 (A)	2011年度 実 績 額 (B)	増減の対比 (A) - (B)	備 考
1. 中期計画実行費				
(1) 前年度予算残	0	0	0	
(2) 一般会計からの繰入	1,500,000	1,500,000	0	
(3) その他収入	0	0	0	
当期収入合計	1,500,000	1,500,000	0	

特別会計 支出の部

科 目	2011年度 予 算 額 (A)	2011年度 実 績 額 (B)	増減の対比 (A) - (B)	備 考
1. 普及・連携委員会活動費	300,000	0	300,000	※
2. 国際交流委員会活動費	500,000	500,418	△ 418	
3. 情報サービス委員会	100,000		100,000	
4. 幹事会活動費	200,000		200,000	
5. テキスト刊行費	300,000	150,380	149,620	
6. その他の中期計画実行費	100,000	0	100,000	
当期支出合計	1,500,000	650,798	849,202	
当期収支差額	0	849,202	—	
当期予算残	—	849,202	—	

※2011年度は、地域助成金15万円を地域研究会事業費の中で、資金移動として処理

(5) 2008年度以降の決算経過総括表

2008年度からの現金・貯金のフローを示す。

X II. 2008年度 (平成20年度)				
費 目		予 算	決 算	差額(予算-決算)
【収入】	一般収入	16,220,000	15,984,555	235,445
	助成金	2,200,000	2,580,000	-380,000
	英文誌関連収入	1,199,800	1,427,450	-227,650
	合 計	19,619,800	19,992,005	-372,205
【支出】	一般支出	18,550,000	19,123,038	-573,038
	雑支出	0	470,400	-470,400
	英文誌関連支出	1,069,800	1,126,650	-56,850
	合 計	19,619,800	20,720,088	-1,100,288
2008年度 キャッシュ・フロー		0	-728,083	: 収入額から支出額を引いた差額
2007年度 現金・貯金繰越相当額 (前年度繰越金+その他収支)			20,657,342	
2008年度 未収金			2,200,000	2008年度河川整備基金+寄付金
2008年度 前払い(会場費)			336,420	
2009年度への繰越金			22,465,679	(内、現金・貯金繰越金: 19,929,259円) ※

※現金・貯金繰越金 = 前年度現金・貯金繰越相当額 + 当年度キャッシュ・フロー (以下同じ)

X III. 2009年度 (平成21年度)				
費 目		予 算	決 算	差額(予算-決算)
【収入】	一般収入	16,220,000	15,534,605	685,395
	助成金	2,200,000	4,114,290	-1,914,290
	英文誌関連収入	1,199,800	1,537,200	-337,400
	合 計	19,619,800	21,186,095	-1,566,295
【支出】	一般支出	18,550,000	21,464,478	-2,914,478
	英文誌関連支出	1,069,800	1,051,950	17,850
	合 計	19,619,800	22,516,428	-2,896,628
	2009年度 キャッシュ・フロー		0	-1,330,333
2008年度 現金・貯金繰越相当額 (前年度繰越金+その他収支)			21,840,643	
2009年度 未収金			1,800,000	2009年度河川整備基金
2009年度 前払い(会場費)			257,350	
2010年度への繰越金			22,567,660	(内、現金・貯金繰越金: 20,510,310円)

X IV. 2010年度 (平成22年度)				
費 目		予 算	決 算	差額(予算-決算)
【収入】	一般収入	16,420,000	15,384,399	1,035,601
	助成金	2,200,000	1,738,943	461,057
	英文誌関連収入	1,195,600	942,043	253,557
	合 計	19,815,600	18,065,385	1,750,215
【支出】	一般支出	21,510,000	20,411,937	1,098,063
	雑支出	400,000	0	400,000
	予備費	100,000	0	100,000
	英文誌関連支出	1,065,600	1,737,450	-671,850
	合 計	23,075,600	22,149,387	926,213
2010年度 キャッシュ・フロー		-3,260,000	-4,084,002	: 収入額から支出額を引いた差額
2009年度 現金・貯金繰越相当額 (前年度繰越金+その他収支)			21,159,360	
2010年度 未収金			1,400,000	2010年度河川整備基金
2011年度への繰越金			18,475,358	(内、現金・貯金繰越金: 17,075,358円)

X V. 2011年度 (平成23年度)				
費 目		予 算	決 算	差額(予算-決算)
【収入】	一般収入	15,412,000	16,476,843	-1,064,843
	助成金	1,600,000	3,163,840	-1,563,840
	英文誌関連収入	1,288,700	1,150,100	138,600
	合 計	18,300,700	20,790,783	-2,490,083
【支出】	一般支出	15,680,000	17,332,278	-1,652,278
	中期計画実行費	1,500,000	1,500,000	0
	英文誌関連支出	1,118,700	1,130,700	-12,000
	合 計	18,298,700	19,962,978	-1,664,278
2011年度 キャッシュ・フロー		2,000	827,805	: 収入額から支出額を引いた差額
2010年度 現金・貯金繰越相当額 (前年度繰越金+その他収支)			17,075,358	
2011年度 中期計画次年度繰越金			849,202	(特別会計からの繰越金)
2011年度 未収金			0	2011年度河川整備基金は入金済み
2012年度への繰越金			18,752,365	(内、現金・貯金繰越金: 18,752,365円) ※

※2011年度より一般会計と特別会計の2つで次年度繰越金を管理。次年度繰越金は特別会計と一般会計の合計値

監査報告書

規約第13条により、平成23年度(2011年度)決算報告書について関係帳簿及び証拠書類と対照監査した結果、正確であることを認めます。

平成24年5月22日

監事 曾根好徳 

監事 廣澤 遵 

(参考) 2011 年度 (平成 23 年度) 事業実施状況・収支見込み

2012 年度 (平成 24 年度) の事業計画, 及び 2012 年度予算に対する現時点での見込み (変更要素) について, 以下に示す.

2012 年度 (平成 24 年度) 事業計画

1. 会誌の発行

15 巻 1 号 (2012 年 7 月 31 日発行)

15 巻 2 号 (2011 年 12 月発行予定)

2. ニュースレターの発行

No. 56 (2012 年 5 月 28 日発行) : ELR2012 東京 (第 16 回大会) 案内等

No. 57 (2012 年 8 月 17 日発行) : 大会プログラム,

No. 58 (2012 年 12 月発行予定) : 大会報告, 行事報告等

No. 59 (2013 年 2 月発行予定) : 行事報告, 会費納入依頼等

3. ワークショップ等の開催

<方針>

普及・連携委員会行事と限定せず, 地域研究会および各委員会の積極的な活動により普及および研修の企画を立て実施する.

また, 後援に関しては応用生態工学研究および普及に資する行事であれば, 学会名の周知の機会でもあるので名義使用を許可し, 広報等に協力する.

● 主催・共催行事

- ① 5/25 : 応用生態工学会 福岡 「第 2 回遠賀川中島自然再生研究会」 (遠賀川水辺館)
- ② 6/8 : テキスト刊行に関するワークショップ (東京都千代田区)
- ③ 7/13~14 : 応用生態工学会第 4 回全国フィールドシンポジウム in 沖縄 (沖縄県浦添市ほか)
- ④ 7/13 : 応用生態工学会東京セミナー「河川生態系の多様性と管理」 (さいたま市・埼玉大学)
- ⑤ 8/29 : 応用生態工学会札幌セミナー「実験水路で見る氾濫原地形 (仮)」 (寒地土木研究所)
- ⑥ 11/9 : 応用生態工学会 金沢 第 11 回北陸現地ワークショップ in 石川
- ⑦ 応用生態工学会 仙台 検討中
- ⑧ 応用生態工学会 新潟 検討中
- ⑨ 応用生態工学会 富山 応用生態工学会第 1 回北信越大会 (仮称) 検討中
- ⑩ 応用生態工学会 福井 検討中
- ⑪ 応用生態工学会 名古屋 検討中
- ⑫ 応用生態工学会 大阪 10 月~11 月 第 4 回近畿現地ワークショップ, 川の自然勉強会他
- ⑬ 応用生態工学会 広島 予定無し
- ⑭ 応用生態工学会 松山 多自然川づくり研修会への協力
- ⑮ 応用生態工学会 福岡 11 月 九州地区事例発表会 (予定)
- ⑯ 第 15 回河川生態学術研究会 研究発表会 (河川生態学術研究会)

- 後援行事

- ① 第15回水源地生態研究セミナー（財団法人ダム水源地環境整備センター，秋）
- ② 10/20：日本生態学会自然再生講習会 第五回『自然林再生のための森づくり技術と協働マネジメント技術』

- 関連行事

- ① 6/5：国際シンポジウム「DAMS FOR A CHANGING WORLD」：主催国際大ダム会議京都大会組織委員会（京都市）
- ② 7/8～7/13：先進陸水海洋学会日本大会（琵琶湖大会）（滋賀県大津市）
- ③ 8/11～12：氾濫原研究会 2012 in 豊岡（兵庫県豊岡市）

4. ELR2012 東京（第16回大会）・公開シンポジウムの開催

東京農業大学世田谷キャンパスにおいて，第2回三学合同大会『ELR2012 東京』を開催し，「災害と自然再生」を主テーマとして公開シンポジウムを実施する予定である．

2012年度 ELR2012 東京（第16回大会）概要

幹事学会：日本緑化工学会

三学合同実行委員長：中村 幸人（東京農業大学 教授）

開催地：東京都世田谷区桜丘 1-1-1

開催日：2012年9月8日（土）～11日（火）

行事予定：9月8日（土）：研究発表，自由集会

：9月9日（日）：研究発表，総会，公開シンポジウム，懇親会

：9月10日（月）：自由集会，エクスカージョン（半日，一泊コース）

：9月11日（火）：エクスカージョン（1日，一泊コース）

- ③ その他、ニュースレター、会員募集等の見直しにより 2012 年度支出見込みは、当初予算から約 340 万円減の 15,650,000 円となる。

3. 2012 年度予算の現時点での収支見込み

2012 年度予算案に対し、収入見込みで約 400 万円の減収、支出見込みで約 340 万円の減額が見込まれる。収支予測としては約 50 万円の赤字となる。

表 9-2 2012 年度予算予測 (7 月時点での予算との比較)

項目		2012年度予測 (7月時点)	2012年度予算 (2011年度総会決議)	2011年度決算		
収入	一般会計					
	会費収入	10,866,000	(正)1,125人×6,000+(学)108人×2,000+(賛)39口×100,000=¥10,866,000	11,520,000	(正)1,170人×6,000+(学)100人×2,000+(賛)43口×100,000=¥11,520,000	9,692,350
	雑収入	170,000	6月末時点での予測	150,000	会誌別刷+受取利息等	301,013
	事業収入	2,750,000		4,800,000		6,483,480
	研究発表会	0	緑化工で管理	2,000,000		3,805,625
	地域研究会(講座等)収入	2,250,000	2011年度実績	2,300,000	2010年度、2009年度実績	2,233,575
	会誌団体購読・販売、他	500,000	2011年度実績	500,000		444,280
	助成金収入	200,000		1,400,000		4,263,840
	河川整備基金	0	2011年度に入金済み	1,200,000	2011年度推定値	2,600,000
	北陸(講座)	200,000	推定値	200,000		1,413,600
	寄付金	-				250,240
	英文誌関連	1,160,000		1,300,000		1,150,100
	英文誌購読料	950,000	推定値	950,000	購読者123名×7,350+11名×4,200	800,100
英文誌広告掲載費	210,000	35000×6口(下方修正)	350,000	35000×10口	350,000	
収入合計	15,146,000		19,170,000		21,890,783	
支出	一般会計					
	管理費	5,130,000	アルバイト代:△650,000円 文具・消耗品費:△70,000円	6,000,000		4,544,382
	事業費(一般活動費)	8,120,000		10,690,000		13,887,896
	会誌編集費	2,800,000		2,650,000		3,307,134
	(会誌編集)	[2,500,000]	6月末時点推定値	[2,200,000]		[3,037,165]
	(ニュースレター編集)	[300,000]	7月末時点推定値	[450,000]		[269,969]
	会員募集費	0	チラシ印刷次年度へ持ち越し	50,000		6,915
	会議費	1,360,000		1,360,000	2011年度予算見直し	1,206,889
	(総会費)	[60,000]		[60,000]	印刷費見直し	[75,519]
	(理事会費)	[700,000]		[700,000]		[557,470]
	(幹事会費)	[600,000]		[600,000]		[573,900]
	委員会活動費	1,200,000		1,230,000		1,086,126
	(普及・連携委員会費)	[900,000]		[900,000]	旅費見直し	[859,066]
	(国際交流委員会費)	[80,000]		[80,000]	2009年度実績	[72,540]
	(情報サービス委員会費)	[30,000]		[60,000]	2009年度実績	[0]
	(将来構想委員会費)	[40,000]		[40,000]	2011年度見込み	[04,520]
	(技術援助委員会費)	[0]		[0]	役員会時に開催(会議費に含まれる)	[0]
	(海外派遣費)	[150,000]		[150,000]	2011年度実績	[150,000]
	(テキスト刊行準備委員会)	[0]	特別会計へ移行	[0]		0
	研究発表会	0	緑化工で管理	1,400,000	2011年度見込み	3,015,461
	公開シンポジウム	750,000	前回の余剰金を供出	2,000,000	2010年度実績-会場費	1,815,049
	地域研究会(講座等)事業費	2,000,000		2,000,000		3,450,322
	その他費用	10,000	HPソフト購入	0		0
	中期計画実行費	1,300,000	特別会計へ移行	1,300,000	アクションプラン実施予算	1,500,000
	英文誌関連	1,100,000		1,100,000		1,130,700
	英文誌購読料	950,000		950,000	購読者123名×7,350+11名×4,200	980,700
	英文誌事務局維持経費	150,000		150,000	35000×10口	150,000
雑費	0		0		0	
支出合計	15,650,000		19,090,000		21,062,978	
収支差額	-504,000	7月時点の予測	80,000		827,805	
特別会計 (第3次中期計画:2009年4月~2013年4月までの4ヶ年計画、予算は2011年4月から150万円を配分、2012年度予算より特別会計で対応)						
特別会計	特別会計 収入	2,149,582		2,149,202		1,500,000
	前年度実行予算残	849,202		849,202	2011年度実施費残	0
	一般会計からの繰り入れ	1,300,000		1,300,000	2012年度中期計画実行費	1,500,000
	その他の収入	0				
	特別会計 支出	1,510,000		0		650,798
	普及連携委員会活動費	900,000		0		0
	国際シンポジウム開催費	0		0		500,418
	テキスト刊行準備委員会	500,000		0		150,380
	事務局健全化WG	100,000		0		0
	情報サービス委員会、他	10,000		0		0
特別会計収支差額	639,582	2012年度予算残	2,149,202		849,202	

第2号議案

2013年度（平成25年度）事業計画案

2013年度（平成25年度）は、2013年4月1日よりスタートする。2013年の事業計画について、以下に示す。

1. 会誌の発行

- 16巻1号(2013年8月発行予定)
- 16巻2号(2013年12月発行予定)

2. ニュースレターの発行

- No. 60 (2013年5月発行予定)：電子配信による第17回全国大会案内等
- No. 61 (2013年8月発行予定)：電子配信による大会プログラムの案内
- No. 62 (2013年11月発行予定)：電子配信による大会報告，行事報告等
- No. 63 (2014年2月発行予定)：電子配信による行事報告，会費納入依頼等

3. ワークショップ等の開催

<方針>

普及・連携委員会行事と限定せず，地域研究会および各委員会の積極的な活動により普及および研修の企画を立て実施する。

また，後援に関しては応用生態工学研究および普及に資する行事であれば，学会名の周知の機会でもあるので名義使用を許可し，広報等に協力する。

・主催・共催行事

- ① (共催) シンポジウム 2回程度予定
- ② 第17回全国大会(開催地：未定)
- ③ 応用生態工学会 国際交流委員会主催 国際シンポジウム(予定)
- ④ 応用生態工学会 札幌
- ⑤ 応用生態工学会 仙台
- ⑥ 応用生態工学会 東京
- ⑦ 応用生態工学会 新潟
- ⑧ 応用生態工学会 富山
- ⑨ 応用生態工学会 金沢
- ⑩ 応用生態工学会 福井
- ⑪ 応用生態工学会 名古屋
- ⑫ 応用生態工学会 大阪
- ⑬ 応用生態工学会 広島
- ⑭ 応用生態工学会 松山
- ⑮ 応用生態工学会 福岡
- ⑯ 応用生態工学会 那覇

・後援・共催行事

- ① 第16回水源地生態研究セミナー（財団法人ダム水源地環境整備センター，秋）
- ② 第16回河川生態学術研究会 研究発表会（河川生態学術研究会）

2013年度（平成25年度）予算案

1. 今後の収入の見込み

第61回理事会(2012年6月7日)の議決により、4年以上の会費滞納者、宛先不明者107名を退会扱いとしたため、まとまった会員数の減少が生じた。その後、2012年8月時点での会員数は、微増傾向にある。2012年度から正会員年会費を千円値上げした効果もあり、会費収入の減少傾向は、若干の増加傾向に転じた。一方で、賛助会員の増加は今後も見込めないことから、会費収入に関しては今後、現状維持で推移するものと予測する。

2013年度の大会については河川整備基金を申請する予定で、公開シンポジウム経費として120万円(2011年度実績)を予定している。

2. 経費縮減の取り組み状況

現時点における経費削減策については、あらかじめの見直し作業はほぼ終了している。今後は、①ニュースレターの印刷物による郵送の有料化(約30万円減額)、②会誌印刷の見直し(希望者のみへの郵送、DVD化、電子配信等を今後、検討する)に加え、事務局事務を極力簡略化することによる事務局経費の削減、役員会・委員会の簡略化による旅費・交通費、会場費等の削減等を推進する。

3. 特別会計の新設

第62回理事会(2012年8月9日開催)の審議により、特別会計の新設が了承された。これを受け、2013年度予算案は、一般会計と特別会計2つの予算案とした。

新設された特別会計(第3次中期計画実行費)の詳細は、以下の通りである。

- ・これまで特別会計としてきた英文誌関連収支は、2010年度のICLEE事務局会計年度変更による半年度分前倒し払いにより、特別会計として処理する理由が消失したため、一般会計扱いとする。
- ・中期計画実行費は、2010年度～2013年度を対象としているために、一般会計から切り離し、特別会計とする。
- ・一般会計に中期計画実行費枠を設けて、ここから特別会計に資金を移行させ、一般会計内での計画実行費は単年度決算で処理する。
- ・特別会計は単年度決算とはせず、当該年度の予算残金は引き続き次年度も計画実行費として使用する。
- ・特別会計の収入は、一般会計からの繰入金を当てる。
- ・特別会計の支出は、①普及・連携委員会活動費、②テキスト刊行委員会の立ち上げ、③事務局健全化WG活動費に重点的に配分するが、必要に応じて国際シンポジウムの開催費、ホームページの改良等に配分する。
- ・特別会計は、2014年3月31日の第3次中期計画終了時に収支決算を行い、一般会計に繰り入れた後、終了とする。

表 11-1 2013 年度予算案

一般会計 収入	2013年度 予算案	増減要因	2012年度 見込み	2011年度 決算	2010年度 決算	2009年度 決算
会費収入	10,100,000	(正)1,000人×6,000+(学)100人×2,000+(賛)39口×100,000=¥10,100,000	10,866,000	9,692,350	9,132,400	10,145,685
雑収入	200,000	会誌別刷+受取利息等	170,000	301,013	155,029	168,163
事業収入	5,300,000		2,750,000	6,483,480	6,096,970	5,220,757
研究発表会	2,500,000	2010年度、2009年度実績より	0	3,805,625	2,838,892	1,935,000
地域研究会(講座等)収入	2,300,000	2011年度実績より	2,250,000	2,233,575	2,168,986	
会誌団体購読・販売、他	500,000	2011年度実績より	500,000	444,280	1,089,092	3,285,757
助成金収入	1,550,000		200,000	3,163,840	1,738,943	4,114,290
河川整備基金	1,200,000	2011年度実績より	0	2,600,000	1,400,000	1,800,000
助成金	350,000	2009年、2010年度実績より	200,000	313,600	338,943	314,290
寄付金	0		0	250,240	-	2,000,000
英文誌関連	1,090,000		1,160,000	1,150,100	942,043	1,537,200
英文誌購読料	878,850	購読者115名×7,350+8名×4,200	950,000	800,100	697,043	1,117,200
英文誌広告掲載費	350,000	35,000×10口	210,000	350,000	245,000	420,000
収入合計	18,240,000		15,146,000	20,790,783	18,065,385	21,186,095

一般会計 支出	2013年度 予算案	増減要因	2012年度 見込み	2011年度 決算	2010年度 決算	2009年度 決算
管理費	5,650,000	・事務局給与:190万円を確保 (事務局長:70万円、パート:120万円)	5,130,000	4,544,382	5,250,432	4,628,051
事業費(一般活動費)	10,450,000		8,120,000	12,787,896	15,161,505	15,052,085
会誌編集費	2,500,000		2,800,000	3,307,134	4,380,676	4,007,823
(会誌編集)	[2,500,000]	2012年度見込み	[2,500,000]	[3,037,165]	[3,396,826]	[3,110,559]
(ニューズレター編集)	0	2013年度より廃止	[300,000]	[269,969]	[983,850]	[897,264]
会員募集費	10,000	2011年度実績より	0	6,915	6,600	58,185
会議費	1,060,000		1,360,000	1,206,889	1,708,465	2,272,138
(総会費)	[60,000]	2011年度実績より	[60,000]	[75,519]	[93,000]	[27,360]
(理事会費)	[500,000]	旅費見直し	[700,000]	[557,470]	[1,107,385]	[1,048,333]
(幹事会費)	[500,000]	旅費見直し	[600,000]	[573,900]	[508,080]	[1,196,445]
委員会活動費	1,070,000		1,200,000	1,086,126	2,920,864	2,248,925
(普及・連携委員会費)	[800,000]	旅費見直し	[900,000]	[859,066]	[1,310,014]	[1,459,855]
(国際交流委員会費)	[80,000]	2011年度実績より	[80,000]	[72,540]	[121,144]	[84,280]
(情報サービス委員会費)	[20,000]	2012年度見込み	[30,000]	[0]	[29,100]	[60,020]
(将来構想委員会費)	[20,000]	2012年度見込み	[40,000]	[4,520]	[18,050]	[0]
(パートナーシップ委員会費)	[0]	2009年 普及委員会と統合	[0]	[0]	[0]	[203,180]
(テキスト刊行準備委員会費)	[0]	特別会計へ	[0]	[0]	[1,318,002]	[291,590]
(技術援助委員会費)	[0]	役員会時に開催(会議費に含まれる)	[0]	[0]	[54,554]	
(海外派遣費)	[150,000]	2011年度実績より	[150,000]	[150,000]	[70,000]	[150,000]
研究発表会	1,500,000	2010年度実績より	0	3,015,461	1,795,266	1,039,828
公開シンポジウム	1,800,000	2011年度実績より	750,000	1,815,049	1,731,103	2,278,288
地域研究会(講座等)事業費	2,500,000	2010年度決算より	2,000,000	2,350,322	2,618,531	3,146,898
HP整備費・その他費用	10,000	ソフト代その他	10,000	0	0	0
中期計画実行費	900,000	特別会計へ移行	1,300,000	1,500,000	0	0
英文誌関連	1,030,000		1,100,000	1,130,700	1,737,450	2,836,292
英文誌購読料	878,850	購読者115名×7,350+8名×4,200	950,000	980,700	1,437,450	901,950
英文誌事務局維持経費	150,000		150,000	150,000	300,000	150,000
雑費	0		0	0	0	1,784,342
支出合計	18,030,000		15,650,000	19,962,978	22,149,387	22,516,428

収支差額	210,000		-504,000	827,805	-4,084,002	-1,330,333
------	---------	--	----------	---------	------------	------------

特別会計	2013年度 予算	増減要因	2012年度 見込み	2011年度 決算	2010年度 決算※
特別会計 収入	1,539,202		2,149,202	1,500,000	0
前年度実行予算残	639,202	2012年度予算残	849,202	0	0
一般会計からの繰り入れ	900,000	2013年度中期計画実行予算	1,300,000	1,500,000	0
その他の収入	0		0	0	0
特別会計 支出	1,530,000		1,510,000	650,798	0
普及・連携委員会活動費	300,000	助成金枠30万円	900,000	0	0
国際シンポジウム実行費	500,000	2年に1度の開催	0	500,418	0
テキスト刊行準備委員会	500,000	テキスト刊行委員会立ち上げ	500,000	150,380	0
事務局改善WG	100,000	事務局改善WG会議費	100,000	0	0
情報サービス委員会、他	130,000	ホームページソフト代等	10,000	0	0
収支差額(予算残)	9,202		639,202	849,202	0

※2010年度は、中期計画実行費は予算化されていない。

規約改正

1. 役員会・委員会の任期の現状

現在、各役員会・委員会の任期は次のようになっている。

・ 理事会・幹事会・監事

総会において選出された日から次の改選期(2年後)までとする。(規約第10条2、3、第11条2、3、第13条2、3)

・ 会誌編集委員会

任期を2年とし、4月1日に始まり翌々年の3月31日に終わる。(編集委員会内規第5条)

・ 技術援助委員会

任期を2年とし、4月1日に始まり翌々年の3月31日に終わる。(内規等は見当たらないが、委嘱状に明記)

・ 普及連携委員会、情報サービス委員会、国際交流委員会、将来構想委員会

内規等はなく、現状では理事会・幹事会・監事の改選と同様に、総会後から2年の任期で委嘱状を送付。

2. 改正の理由

前述した現状について、第61回理事会(2012年6月7日開催)で審議され、以下の理由により委員会の任期についての改正案が理事会で承認された。

理由-1: 2年毎の理事・幹事・監事の改選に伴う各役員への委嘱作業と、各委員会の委嘱作業が重複しているため、これを分けることにより事務局作業の軽減を図る。

理由-2: 各委員会で任期が異なることの統一。

理由-3: 事務局の引き継ぎの際の、混乱の防止(規約に明記していない事による混乱の防止)

以上の審議結果に基づき、規約第17条3の改定を起案するものである。

<応用生態工学会規約(改正案)>

(委員会)

第17条 本会はその運営等のため、理事会の議決を経て、各種の委員会を設けることができる。

2 委員会の委員は会長がこれを委嘱する。

「現行」: 3 委員の任期は2年を原則とし、再任は妨げないものとする。

「改訂案」: 3 委員の任期は2年を原則とし、4月1日に始まり翌々年の3月31日に終わる。ただし、再任は妨げないものとする。

(付則) 12. 本規約は、平成24年9月9日に改正し施行する。

《添付資料》

応用生態工学会・役員名簿（第8期）

（平成24年8月1日現在）

1. 会長：・ 近藤 徹 （国土総合研究機構 顧問）
2. 副会長：・ 谷田 一三 （大阪府立大学大学院 教授）
 ・ 池淵 周一 （(財)河川環境管理財団 研究顧問）
 ・ 中村 太士 （北海道大学大学院 教授）
 =副会長3名、五十音順=
3. 理事：・ 浅枝 隆 （埼玉大学大学院 教授）
 ・ 江崎 保男 （兵庫県立大学 教授）
 ・ 風間 ふたば （山梨大学大学院 教授）
 ・ 河崎 和明 （(財)河川環境管理財団 審議役）
 ・ 久保田 勝 （東北電力株式会社 顧問）
 ・ 熊野 可文 （利根川歴史研究会 事務局長）
 ・ 小島 伸一 （いであ株式会社 代表取締役社長）
 ・ 島谷 幸宏 （九州大学大学院 教授）
 ・ 関根 雅彦 （山口大学大学院 教授）
 ・ 玉井 信行 （金沢学院大学大学院 教授）
 ・ 辻本 哲郎 （名古屋大学大学院 教授）
 ・ 藤原 宣夫 （大阪府立大学大学院 教授）
 ・ 松井 正文 （京都大学大学院 教授）
 ・ 渡辺 和足 （(財)ダム水源地環境整備センター 理事長）
 =理事14名、五十音順=
4. 幹事長：・ 藤田 光一 （国土交通省国土技術政策総合研究所河川研究部 河川研究部長）
5. 副幹事長：・ 萱場 祐一 （(独)土木研究所 自然共生研究センター センター長）
6. 幹事：・ 東 信行 （弘前大学 准教授）
 ・ 仮谷 伏竜 （株式会社建設技術研究所 主幹）
 ・ 河口 洋一 （徳島大学 准教授）
 ・ 五味 高志 （東京農工大学 准教授）
 ・ 坂之井 和之 （(財)リバーフロント整備センター 水辺・まちづくりグループ長）
 ・ 島崎 由美 （いであ株式会社 内部統制本部 部長）
 ・ 関島 恒夫 （新潟大学 准教授）
 ・ 高橋 剛一郎 （富山県立大学 教授）
 ・ 高村 典子 （(独)国立環境研究所 生態系影響評価研究室長）
 ・ 高村 裕平 （国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境保全調整官）
 ・ 田代 喬 （名古屋大学 准教授）
 ・ 三宅 洋 （愛媛大学大学院 理工学研究科環境建設工学コース 講師）
 ・ 武藤 裕則 （京都大学 准教授）
 =幹事（副幹事長含め）15名、五十音順=
7. 監事：・ 曾根 好徳 （名古屋大学 教授）
 ・ 廣澤 遵 （株式会社建設技術研究所 東京本社次長）
 =監事2名、五十音順=

[第8期役員は、平成23年（2011年）9月17日、第15回総会において選出された。任期は2年、平成25年総会まで]

応用生態工学会規約

第1章 総 則

(名 称)

第1条 本会は、「応用生態工学会」と称する。

(事務局)

第2条 本会は、事務局を東京都千代田区麹町 4-7-5 麹町ロイヤルビル 405 号室に置く。

第2章 目的・研究活動

(目 的)

第3条 本会は、「人と生物の共存」「生物多様性の保全」「健全な生態系の持続」を共通の目標に、生態学と土木工学の基礎知識および実際的問題についての研究成果をもとに、両分野の関係者が共同して、それらの境界領域に新しい理論・知識・技術体系である「応用生態工学」を発展・展開させることを目的とする。

(研究活動)

第4条 本会は、前条の目的を達成するため次の活動を行う。

- 1 応用生態工学に関する調査・研究活動
- 2 応用生態工学に関する学術講演会，研究会，シンポジウム，講習会，現地見学会
- 3 応用生態工学に関する国内外の調査・研究活動，会議に関する情報の収集と伝達
- 4 応用生態工学に関する調査・研究活動に関する技術援助
- 5 応用生態工学に関する国際的学術交流
- 6 応用生態工学に関する受託事業
- 7 会誌の発行
- 8 その他，本会の目的を達成するために必要な事業

第3章 会 員

(会 員)

第5条 本会は次の会員をもって組織する。

- 1 正会員 本会の目的に賛同する個人
- 2 学生会員 本会の目的に賛同する学生
- 3 賛助会員 本会の目的事業を賛助する個人並びに法人，またはその他団体
- 4 名誉会員 本会並びに応用生態工学の発展に大きな功績のあった個人のうちから，理事会の推薦により，総会において決定される。

(入 会)

第6条 会員になろうとするものは，所定の入会手続きを行わなければならない。

(会 費)

第7条 会員は細則の定めるところにより会費を納入しなければならない。

2 納入した会費は理由を問わず返還しない。

(資格の喪失)

第8条 会員は、次の理由によりその資格を失う。

1 本人が書面によって退会を申し出たとき

2 会費を滞納したとき

3 本会の名誉を傷つけたとき、または本会の目的に反する行為があったとき

第4章 役 員

(役 員)

第9条 本会に役員をおく。

会 長 1名

副会長 3名以内

理 事 15名以内

幹事長 1名

幹 事 15名以内

監 事 2名

(会長及び副会長)

第10条 会長及び副会長は総会において選出される。

2 会長及び副会長の任期は選出されてから、次の改選期までとする。ただし、それぞれについては、再任は連続二期までとする。

3 会長及び副会長の改選は2年毎に行う。

4 会長は本会を代表してその会務を総括する。

5 副会長は会長を補佐し、会長に事故のある時はあらかじめ会長が指名した順によりその職務を代行する。

(理 事)

第11条 理事は正会員の中から総会において選出される。

2 理事の任期は選出されてから、次の改選期までとする。ただし、再任は連続二期までとする。

3 理事の改選は2年ごとに行う。

4 理事は理事会を構成し、会務執行のために必要な事項を議決する。

(幹 事)

第12条 幹事長と幹事は理事会の推薦により総会において正会員の中から選出される。

2 幹事長と幹事の任期は選出された日から次の改選期までとする。ただし、再任はそれぞれについて連続二期までとする。

3 幹事長と幹事の改選は2年毎に行う。

4 幹事長と幹事は幹事会を構成し、会務執行のために必要な事項を検討する。

5 副幹事長は幹事会の推薦により、会長が任命する。

(監 事)

第 13 条 監事は総会において選出される。

- 2 監事の任期は選出された日から次の改選期までとする。ただし、再任は妨げない。
- 3 監事の改選は 2 年毎に行う。
- 4 監事は本会の会計および会務執行の状況を監査する。

第 5 章 会 議

(総 会)

第 14 条 総会は正会員により構成され、次の事項を議決する。

- (1) 事業計画及び事業報告
 - (2) 予算、決算
 - (3) 役員を選出
 - (4) 規約の改正
 - (5) その他理事会で必要と認めた事項
- 2 通常総会は毎年 1 回、臨時総会は理事会が必要と認めたときに会長が召集する。なお、正会員は、正会員の 10 分の 1 が連名し、議事を明記して会長に臨時総会の召集を申し出ることができる。この場合、会長はその開催について理事会に諮るものとする。
- 3 総会の議長は総会において正会員の中から選出する。
- 4 総会は正会員の 1 / 5 の出席によって成立する。
- 5 総会における正会員の議決権は各一個とし、議決は出席者の過半数によって決め、可否同数のときは議長がこれを決定する。
- 6 やむを得ない理由のため総会に出席できない正会員は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決し、又は他の正会員を代理人として表決を委任することができる。書面により表決した会員は総会に出席したものとみなす。

(理事会)

第 15 条 理事会は会長、副会長、理事によって構成され、本会の基本方針の策定および運営に必要な事項を審議する。

- 2 理事会は会長または理事の三分の一以上が必要と認めたときに開くことができる。
- 3 理事会の議長は会長とする。
- 4 理事会の成立には理事現在数の過半数の出席者を必要とする。ただし、当該事項につき書面をもってあらかじめ意見を表示した者は出席者とみなす。
- 5 理事会の議事は出席者の過半数によって決め、可否同数のときは議長がこれを決定する。
- 6 幹事長は理事会に出席し意見を述べることができる。
- 7 各委員会の委員長は、必要に応じて理事会に出席することができる。

(幹事会)

- 第 16 条** 幹事会は幹事長、幹事によって構成され、総会の決定した基本方針および理事会の審議決定に基づき本会の運営を推進する。
- 2 幹事会は幹事長がこれを召集する。
 - 3 幹事会の議長は幹事長とする。
 - 4 幹事会の成立には幹事現在数の過半数の出席を必要とする。ただし、当該議事につき書面をもってあらかじめ意見を表示した者は出席者とみなす。
 - 5 幹事会の議事は出席者の過半数によって決め、可否同数のときは議長がこれを決定する。
 - 6 各委員会の委員長は、幹事会に出席し意見を述べることができる。

(委員会)

- 第18条** 本会はその運営等のため、理事会の議決を経て、各種の委員会を設けることができる。
- 2 委員会の委員は会長がこれを委嘱する。
 - 3 委員の任期は2年を原則とし、再任は妨げないものとする。

(分科会)

- 第 18 条** 本会にはその目的達成のため、理事会の議決を経て、各種の分科会を設けることができる。分科会の運営に関しては別に定めるところによる。

第 6 章 その他

(経費および会計)

- 第 19 条** 本会の経費は、会費、寄付金、その他の収入をもってあてる。
- 2 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌3月31日に終わる。
 - 3 本会の会計処理は事務局がこれにあたり理事会に報告する。
 - 4 理事会は、年度終了後、決算報告を監事の意見を付して総会に提出し承認を受けなければいけない。

(規約の改正)

- 第 20 条** この規約を改正しようとするときは、総会の議決によらなければいけない。

- (付 則) 1. 発足時の幹事については、規約 12 条に係わらず、総会の決議を経て正会員の中から選出する。
2. 本規約は、平成 9 年 10 月 15 日より施行する。
 3. 本規約は、平成 11 年 9 月 18 日改正し施行する。
 4. 本規約は、平成 13 年 9 月 29 日改正し施行する。
 5. 本規約は、平成 14 年 10 月 5 日改正し施行する。
 6. 本規約は、平成 16 年 10 月 1 日改正し施行する。
 7. 本規約は、平成 17 年 9 月 30 日改正し施行する。
 8. 本規約は、平成 18 年 9 月 30 日改正し施行する。
 9. 本規約は、平成 19 年 9 月 16 日改正し施行する。
 10. 本規約は、平成 20 年 9 月 21 日改正し施行する。
 11. 本規約は、平成 22 年 9 月 24 日改正し施行する。

規約細則

(細 則)

第 1 条 本会の運営は、応用生態工学会規約（以下「規約」という。）および本細則による。

(入 会)

第 2 条 会員になるには所定の入会申込書記入要領により必要事項を記入し、会費を添えて事務局へ提出するものとする。

(会費納付)

第 3 条 会費は前納とする。ただし、特別の理由があるときには、6ヶ月ずつ年2回に分納することができる。

(会 費)

第 4 条 本会の会費については、平成 23 年度以降次の通りとする。ただし、正会員が当該年度全国大会後に入会する場合は当該年度会費を半額とする。

- | | | | |
|---|--------|----------|------------------|
| 1 | 正会員 | 年額 | 6,000 円 |
| 2 | 学生会員 | 年額 | 2,000 円 |
| 3 | 賛助会員 | 年額 | 100,000 円（1 口以上） |
| 4 | 名誉会員は、 | 会費を免除する。 | |

(事務局体制)

第 5 条 事務局には、理事会の承認のもとに事務局長 1 名をおく。また、事務局長を補佐する事務局次長をおくことができる。

2 理事会の承認のもとに、地域の研究会をおくことができる。各研究会には、連絡責任者をおくものとする。

3 研究会の名称は、「応用生態工学会”地域名”」とする

(細則の改正)

第 6 条 本細則を改正しようとするときは、理事会の決議によらなければならない。

(付 則)

本細則は、平成 9 年 10 月 15 日より施行する。

本細則は、平成 11 年 6 月 3 日改正し施行する。

本細則は、平成 12 年 10 月 7 日改正し施行する。

本細則は、平成 15 年 6 月 14 日改正し施行する。

本細則は、平成 15 年 9 月 18 日改正し施行する。

本細則は、平成 23 年 2 月 4 日改正し施行する。

本細則は、平成 23 年 8 月 23 日改正し施行する。